

厚田区地域協議会 第7期総括並びに引継ぎ事項（案）

第7期地域協議会では「^{きんせつえんらい}近説遠来」の具現化・実現に向け、道の駅石狩「あいろーど厚田」を地域振興の核として、更なる活用に向けた議論が進められたほか、自治連合会との連携により、道の駅オープンに伴う『厚浜区民パーティ』や『厚田 150 周年記念事業』の取り組みを共に執り進めました。

また、6 期から引き継いでいる「カンパニー構想」の必要性を問う「アンケート会議」や「地域おこし協力隊活用検討委員会」など、地域住民と地域協議会とで構成された地域協議会の下部組織を設置して議論が進められ、その結果を地域協議会へ答申するなど、住民の意思を反映した取り組みを協議会が中心となり図って参りました。

結果、アンケート会議では地域や年齢によって課題が違ふこと、地域での支え合いは少なからず必要と感じていることが確認でき、またアンケート会議からの提言として、若い世代・世帯の方々に住んで頂く、住みたくなるような街にする、そのためには、自分たちができること・地域で取り組むこと・行政において進めることなど、区民と行政との協働の取り組みが引き続き必要不可欠であることが、あらためて確認されました。

次に、地域おこし協力隊活用検討委員会においては、2 名の協力隊を新たに募集し 4 名体制とすることで、個々の活動・取り組みの他に 4 人のチームとしての目標を掲げ、将来的には区内に協力隊事務所を構え区民との接点が数多く持てるような姿を目指し、今後も 4 名体制を維持して行くことが地域協議会へ答申され、その方向性を協議会として確認しました。

今後も地域協議会を中心に自治連合会やより身近な町内会との連携を密に更なる『住民自治の推進』『協働の取り組み』が近説遠来の具現化・実現に結び付くものと考えます。

次に、令和 2 年 3 月末を以って満了を迎える地域自治区のあり方については、平成 30 年度第 6 回から 8 回までの 3 回に亘り議論を重ね、自治区存続の有無に係らず、地域協議会としては今後も区民主体の「審議の場」の必要性が確認さ

れましたが、令和元年度第４回協議会の中において、令和７年度まで５年間延期することが市より諮問され、全会一致で提案内容を承認し答申を行いました。

次に、若者の声を引き出す、活かす為の工夫として「座談会」を実施し、若い力の活用・必要性をあらためて協議会として認識しました。

今後は、全国的な課題である少子高齢化・過疎化を食い止める大胆な取り組み・アイデアが必要であると感じる一方で、一人ひとりが地域協議会委員としての役割を認識することが重要であると確認しました。

協議会で得た情報を地域と共に共有し、地域の声を一つでも多く拾い上げられるような「場づくり」を進めながら、委員としての役割である新たな地域振興のきっかけづくり・つなぎ役として、また、アンケート会議からも本気で向き合うトリガー（牽引者）の発掘が地域課題の解決、新たな地域振興を導き出すものと提言されており、今一度委員の役割を意識しつつ、区民の一員・一人として、地域振興に熱く向き合い執り進めて欲しいと願います。

厚田区が目指す将来の姿「近説遠来」の近説を、より身近に実感・共感できることが、住民同士が共に支え合う『共助』のまち、すなわち『カンパニー構想』の実現へと近づき、このことがアンケートに答えて頂いた厚田区民を始め、携わったメンバーに対する応えになると考えます。

『共助のまち・厚田』を合言葉に、次期の更なる飛躍を期待し、８期への引継ぎ事項と致します。